



## 新年おめでとうございます

皆様のご健康とご多幸を  
心よりお祈り申し上げます。



2011年(平成23年)元旦

京都外国語大学附属図書館  
京都外国語短期大学附属図書館

## 学園祭協賛行事「図書館フォーラム」を 開催しました

本学図書館は、昨年の11月2日(火)の午後2時から、通算12回目となる学園祭協賛行事「図書館フォーラム」を開催しました。会場となった第2閲覧室には、学園祭開催中にも拘わらず、多くの学生や市民の方々が集まりました。

今回のテーマは「和の心とは」で、本学点検評価調査室の村岡孝之氏による基調講演が行われ、その後、学生4組8人による発表として柔道、合気道、弓道、剣道各部員による実技を交えた稽古着や競技の特徴についての説明が行われました。柔道と剣道の発表には留学生も参加していただきましたが、他のクラブにも今までに留学生が何人か入部して日本人と一緒に活動したエピソードが披露され、日本の伝統スポーツを積極的に体得しようという人々の国際的な広がり理解されました。去年の華やかさとは更にひと味違った国際色豊かな発表となりました。(21頁から23頁に関連記事)

## 日本ポルトガル修好通商条約150周年記念稀 観書展示会「鎖国期をはさんだポルトガル人 の日本研究」を開催しました。

本学図書館は、昨年の11月22日(月)から12月27日(土)にかけて、日本ポルトガル修好通商条約150周年記念稀観書展示会「鎖国期をはさんだポルトガル人の日本研究」を国際交流会館6階のユニバーシティギャラリーで開催しました。

日本とポルトガルの交流は、1543年のポルトガル人種子島漂着から始まりましたが、1549年にイエズス会のフランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられると、ポルトガル人の宣教師や貿易商人が頻繁に来日するようになりました。

この展示会には、宣教師達がヨーロッパなどへ送って刊行された各種の『書簡集』や『年報』をはじめ、有名な宣教師ルイス・フロイスの『日本史』、1543年に種子島へ漂着した3人のうちの1人と言われるポルトガル商人フェルナン・メンデス・ピントの『遍歴記』などのほか、明治時代に来日したヴェンセスラウ・デ・モラエスが日本文化に関して研究した作品や書簡集など、併せて38点の資料が出展されました。



また、この会場には書家の山本郁さんによるポルトガルの詩を書で表現した作品も一緒に展示され、学生・教職員はもとより、多くの学外の方々が出展資料に見入っていました。